

特色を活かした地域特産野菜の生産振興

要約

- ① 田原本町産「味間いも」の生産振興のために、市場出荷に向けて出荷基準や出荷用段ボールを作成するとともに、直売所においてPR活動の支援を行い、ふるさと納税返礼品の取り扱いへと誘導した。また、優良種芋の増殖・確保に向け、無病苗を活用した種芋増殖圃を設置し、外観品質や食味について確認を行った。
- ② 御所市特産野菜の生産振興のために、従来より栽培されてきた夏野菜の生産安定を図るとともに、秋冬野菜の試験栽培を支援した。

現状(背景)と課題

- ① 田原本町では里芋「味間いも」のブランド構築に向けた取り組みが行われており、PR活動、販路先の確保、生産技術の高位平準化、種芋更新による品質の安定化、優良種芋の確保が必要。
- ② 御所市では市が認定する地域特産品「ごせブランド」野菜(夏野菜) [*]の水田等への導入が進み始めており、取組面積と販売額の拡大が必要。
*：夏分葱・紫とうがらし・宝楽ししとう、オクラ(ヘルシエ)

目標

- ① 「田原本町味間いも生産者の会」の販売額→2,900千円
優良種芋確保と生産体制の確立
- ② 御所市特産野菜の
販売額 →2,815千円
栽培面積→130a

活動内容

- ① 対象：田原本町味間いも生産者の会 25戸・0.8ha
 - ・安定生産に向けた栽培指針の作成や巡回指導。
 - ・優良種芋の増殖と確保に向けた実証圃の設置に関する支援。
 - ・「味間いも」のPR活動や市場出荷に向けた取り組みに関する支援。
- ② 対象：御所市地域農業再生協議会 多品種部会・わけぎ部会(16戸・1.1ha)
 - ・栽培に関する講習会や販売検討会を行うとともに、現地巡回を実施。
 - ・新規品目となる秋冬野菜を検討し、試験栽培について支援(R5：キャベツ「彩音」・サトイモ「ウーハン」)。

成果

- ① 田原本町産「味間いも」について
 - ・R5年度の販売額は2,900千円で目標額に到達した。
 - ・県農業研究開発センターの協力のもと、無病苗による種芋生産を実施し、芋の外観品質や食味についても生産者とともに確認でき、優良種芋生産の重要性について生産者の認識を深めた。
 - ・田原本町のふるさと納税返礼品へと誘導でき、市場出荷に向けて、選別基準と出荷用段ボールの作成へと誘導できた。
- ② 御所市産特産野菜について
 - ・既存品目に加え、新規品目としてサトイモ「ウーハン」とキャベツ「彩音」の作付けが増加し、R5年度の面積は130aで目標値に到達した。
 - ・販売額は猛暑による夏野菜の生育不順により、目標額の6割(1,682千円)に留まったものの、「宝楽ししとう」の単価が3年間安定して高く、今後、優先して作付け推進する品目の一つとして選定できた。

普及活動のポイント

- ① 田原本町産「味間いも」について
生産者団体・JA ならけん川東営農経済センター、田原本町役場と連携して活動を行った。種芋の供給体制については、農業研究開発センターの協力のもと無病苗を用いた実証圃を設置することができた。
- ② 御所市産特産野菜について
御所市・JA ならけん御所営農経済センター・生産者団体と連携し、秋冬野菜の新規品目の検討や販売結果を踏まえた品目構成の検討を実施した。

対象の変化

- ① 田原本町産「味間いも」について、種芋専用圃場を設置する等優良種芋の生産に関する意識が高まった。
- ② 御所市産特産野菜について、新規品目としてキャベツ・ウーハンを試行的に栽培した。販売実績の検討結果を踏まえ、令和6年度の「宝楽ししとう」の栽培希望者が増加した。

対象者からのコメント

- ① 田原本町産「味間いも」について
無病苗を活用した種芋生産は、優良種芋を生産する上で極めて有効な手段であり、次年度も試行したい。
- ② 御所市産特産野菜について
これまでの販売実績の検討結果を元に、既存品目（夏野菜）については市場単価の安定した品目（宝楽ししとう）に集中して生産したい。

これからの活動ビジョン

- ① 田原本町産「味間いも」について
高齢化に伴う栽培面積の減少が著しいため、新規の生産者の募集方法について検討する。
- ② 御所市産特産野菜について
夏期高温による収量減少を低減するための栽培技術支援を行う。



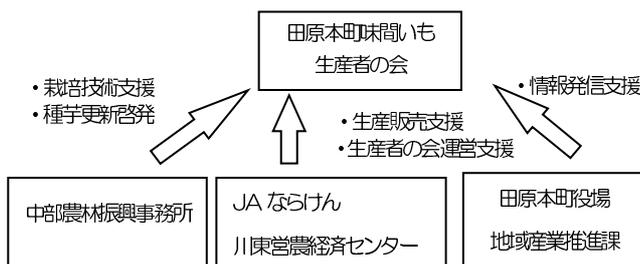
「味間イモ」の選別基準作成に向けた支援



御所市特産野菜の販売結果検討会

活動体制

① 田原本町産「味間いも」について



② 御所市産特産野菜について

